



# 元気な十和田市を実感できるとまちづくり

市民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健康やかに新年をお迎えのことと心から喜び申し上げます。

市長就任以来、市民の皆さまの温かいご支援とご協力を大きな力としながら、「元気な十和田市」の実現に全力で取り組んでまいりました。新春に臨み、諸課題の解決と着実な施策の実行に向け決意を新たにしているところであります。

昨年を振り返りますと、3月11日に東日本大震災が発生し、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。本市においては直接的な被害こそ少なかったものの、原発事故による風評被害などにより、基幹産業である観光はもとより地域経済にも大きな影響を受けまし

た。こうした中で、本市は被災地に対して義援金や物資の支援、市職員ならびに市民災害ボランティアの派遣、被災者の受け入れなどのほか、福島県の子どもたちに16日間の体験学習機会を提供する「十和田・奥入瀬サマーキッズキャンプパス」を実施しました。この間、多くの市民や団体から義援金や支援物資をいただき、まさにわが国は、昨年の世相を表す漢字として選ばれた「絆」のとおりに強く結ばれているというのを感じました。あらためて被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

一方で、11月には中心市街地に「アートのステーショントワダ」が完成し、飲食店や衣料雑貨など多様なテナントがオープンしました。その中のひとつとして十和田市観

光物産センターを設置し、地元のお土産品の販売や観光情報などの発信を行うことができるようになりました。

また、東京都世田谷区に十和田産品を主とした物産ショップ「十和田の食卓」がオープンし、首都圏の皆さまにご利用いただいているほか、「十和田バラ焼きゼミナール」がB1グランプリで2年連続8位入賞するなど明るい話題がありました。

さて、本年におきましては、依然として地方自治体を取り巻く環境が厳しい中ではありますが、引き続き財政の健全化を図る一方で、基幹産業である農業と観光の振興、中心市街地の活性化など将来を見据えた取り組みを展開してまいりたいと考えております。

中でも、農業の振興については、産地力強化のため、販売体制や主要作目のブランド化を強化するほか、農業の六次産業化に向けた取り組みを実行し、経営安定につなげてまいりたいと考えております。

また、観光の振興については、東北新幹線の開業効果をより高めていくため、観光関係者や関係自治体などとの一層の連携協力により、さらなる観光資源の掘り起こしや、受け入れ体制の充実などのほか、誘客や交流人口の増加に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。



十和田市長 小山田 久  
Oyamada Hisashi

結びに、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。